

対馬釜山事務所だより

花の宮殿になる故郷

私の住んでいた故郷は花が咲く山村
ボッサア桃の花、サルグッコ(杏の花)、ちっちゃいジンダルレ(ツツジ)
色どりどり花の宮殿になる村
その中で遊んでいた頃が懐かしい

これは街中の風景



知らず知らずこの童謡をふと口ずさんでいる季節です。

春一番に咲き季節を告げる黄色いゲナリ(連翹)、弱い娘みたいな木蓮、陽射しが舞い降りたような眩しい桜、山火事と錯覚しそうなチンダルレ(ツツジ)、群れで一つの絵になるユチェッコ(菜の花)などなど...見るたびに気持ちが浮き立ちます。

「毎日、山登りでもしているの?」と思うかも知れませんが、これは街中の風景。

最近、釜山の街は変わりました。お花や緑が見られるところが増えてきたのです。

コンクリートで護岸整備された河川を自然河川へ戻したり、道路の中央帯に木やお花を植えたり、プチ公園を作ったり...。この自然への回帰は、灰色のビルばかりで息苦しかった釜山の人々にとってはとてもうれしいことです。このようなちょっとした配慮が人の心をホットさせ、豊かにするんですね。

今頃、対馬の浅茅湾には山にも海にも赤く玄海ツツジが咲いているでしょう。道路の片隅にそっと咲いているスマレや穏やかな丘に黄色い絨毯のように広がったウマノアシガタ(キンボウゲ)、ある家の前にふわっと膨らんでいるアジサイ、春の雪が降ってきたような鰐浦のひとつばたご...思い出だけで、もっともっと素敵な気分になります。

韓国では「春は女の季節」だと言います。自然の華やかさや華麗さ、艶やかな色調が女性にぴったりだからでしょう。科学的にも冬から春にかけ強くなってゆく陽射しに対して男性より女性の方が敏感に反応し、とってもうきうきになるそうです。

この時期、外も中も変わる女性と春はぴったりですね。

(でも実は、日ごとに移り変わりの多い春の天気^{ことわざ}に女性の気質をなぞらえた諺なのです。)

さて、皆様、聴いてみたくはないですか? 私が口ずさむ歌「故郷の春」

“はい! それでは毎日毎日歌ってあげます!!”

毎日昼の12時、厳原町で鳴るチャイムに耳をよく澄ませてみてください。皆様に伝える私の声がきっと聞こえるでしょう。^^

対馬釜山事務所 金 京一、辛 恩京